

参天製薬株式会社

2007年度 決算説明会

2007年度 決算概要

2008年度 業績見通し

2006-10年度中期経営計画進捗状況

株主還元策

2008年5月9日

代表取締役会長兼CEO

森田 隆和

(見通しに関する注意事項)

この資料は参天製薬の戦略、計画、業績などに関する将来の見通しを含んでいます。この見通しは、現在入手可能な情報をもとにした当社経営者の判断に基づいています。従って実際の業績は、事業環境の変化、新薬の承認時期、為替レートの変動、行政動向など様々な要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おき下さい。

2007年度 決算概要

2006-10年度中期計画の2年度を、
中期基本方針である、「世界の参天に向けた新薬候補の準備と強みが発揮できる地域での成長」に沿って実行

1. 売上高は国内外で拡大 前期比2.9%増、1,033億円
国内 1.6%増、海外11.2%増

2. 営業利益は、前期比 0.2%減、203億円

国内では競合品対策・ドライアイ疾患啓発、欧州では普及促進強化のための販売費増、中国では直接販売開始準備のために費用増

3. 主な新薬候補

DE-085: 日本・欧州で申請中

DE-089: 日本で申請準備中

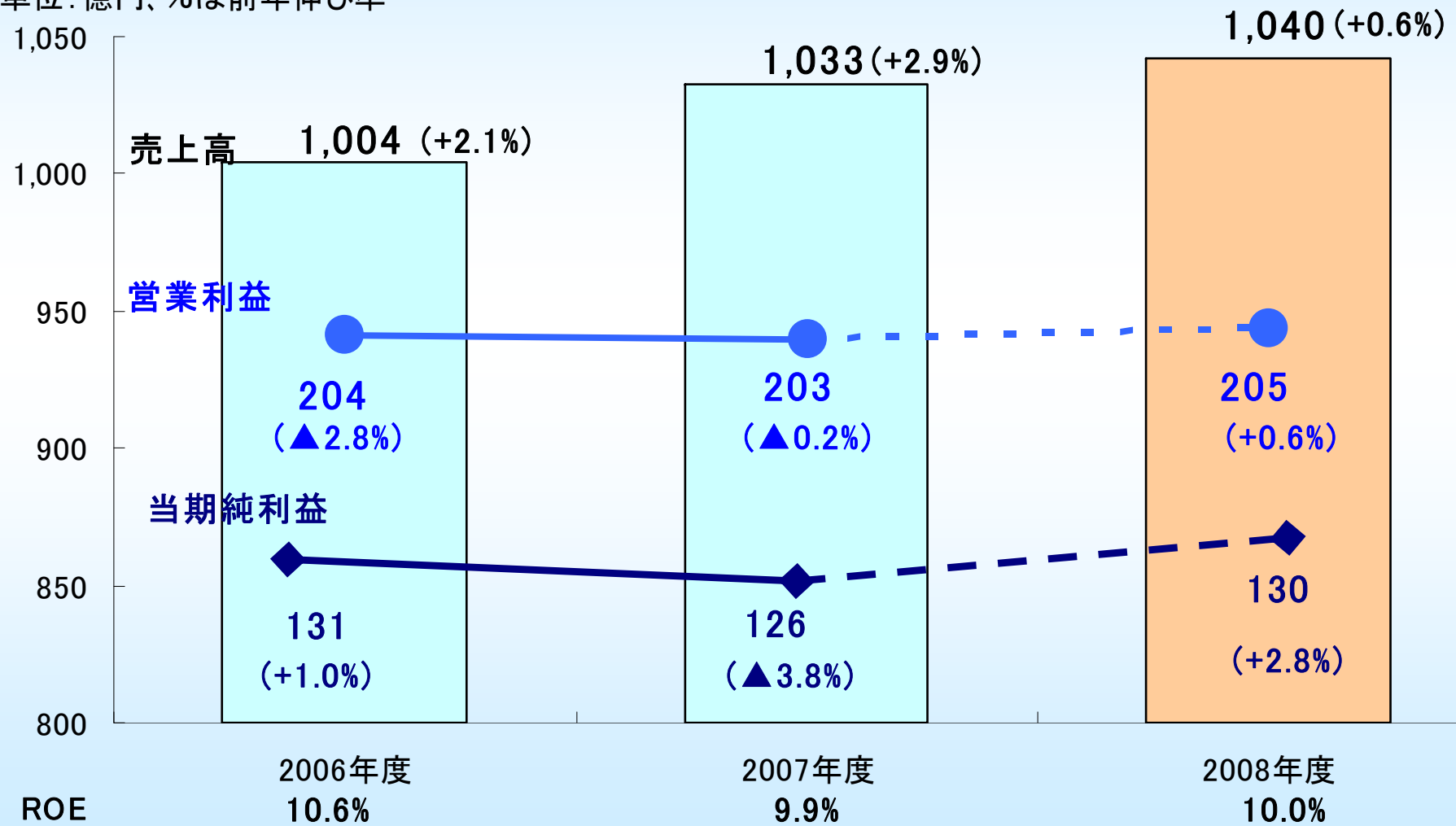
DE-101: 米国で第2相実施中、日本で第2相準備中

DE-104: 日本・米国で第2相実施中

4. 自己株式取得を実施

2008年度の連結売上・利益予想

単位：億円、%は前年伸び率



2008年度の見通し

1. 国内医療用医薬品事業

3%半ばの薬価改定の影響に加えて、他社新製品との競争の激化が見込まれるものの、売上は0.6%増加を予想。ドライアイの大規模啓発活動実施、緑内障治療剤の新製品上市等によるもの。

2. 海外事業

欧州では、北欧・東欧・ロシア・ドイツなどを中心に売上増。アジアは、主に中国・韓国で製品の着実な市場浸透を予想。参天製品の一層の市場浸透を図る。米国は、臨床開発・事業開発への注力を継続。

3. 研究開発

自社創薬、外部との共同研究開発、外部からの獲得を強化して新製品候補の充実を行う。

4. 利益

臨床開発の進捗に伴う研究開発費の増加により、販売費および一般管理費は2007年度に比べて増加。

その結果、売上高の微増と相まって、営業利益は、2007年度比0.6%増の205億円を見込む。純利益は、2007年度比2.8%増加の130億円を予想。

中期基本方針

世界の参天に向けた新薬候補の準備と、
強みが発揮できる地域での成長

1. グローバル戦略新薬候補を充実させる
2. 日本をはじめ、北欧・東欧・ロシア、中国での成長、
米国は臨床開発と事業開発に注力する
3. 生産基盤を強化させる
4. グローバルレベルで人材・組織を強化する

中期基本方針の進捗状況-1

	<u>2006-07年度 実績</u>	<u>2008年度 予定</u>	<u>2009-10年度計画</u>
1.グローバル戦略新薬候補の充実			
11.グローバル戦略	DE-101 P2(米)	P2(日米)	P3: 09年度
新薬候補の開発	DE-104 P1(米), P2(日米)	P2(日米)	***
注:日本市場を中心とした 新製品の申請・承認	DE-085申請(日欧) MD-14,インジェクター承認 DE-089 P3	DE-085承認予定 申請	
2.強みが発揮できる地域での成長			
21.日本:緑内障、角膜疾患、眼内レンズの新製品の製品価値早期最大化と既存製品の普及促進強化			
緑内障(新製品)	DE-085の上市準備開始	08年度上市 早期価値最大化	早期価値最大化
(既存品)	既存緑内障製品の拡販		
角膜疾患(新製品)			10年度DE-089上市想定
(既存品)	ドライアイ疾患啓発活動	啓発活動の収穫	処方提案力向上による 処方拡大
眼内レンズ	MD-14上市準備	本格上市	

中期基本方針の進捗状況-2

2006-07年度 実績

2008年度 予定

2009-10年度計画

2.強みが発揮できる地域での成長

22.北欧・東欧・ロシア: オフタクイクス、ならびに、既存製品の価値最大化、DE-085の上市

新製品、既存製品の
価値最大化

既存品の普及促進活動
強化、オフタクイクス許可
(口)、
DE-085申請、上市準備

DE-085上市(8カ国)

オフタクイクス上市(口)

23.中国

: 現地生産開始、自販体制の早期確立による事業基盤・競争力の強化

自社販売網構築

自社MRの採用・教育
学術訴求による処方拡大

処方の更なる拡大

自販開始(段階的)

24.米国

: 臨床開発・事業開発への注力

3.生産基盤強化

日本・フィンランド・中国におけるライン・拠点再編による中長期的な生産基盤の強化

31.生産ライン再編
による効率化
(有事の供給確保も)

ライン再編計画策定
中国工場着工・竣工

→

生産ライン再編

小分け包装開始

4.組織人材の強化

人材育成と組織・体制の強化・再構築

41.基幹人材の育成

実態把握・育成計画策定

計画の実施

継続

42.組織力強化

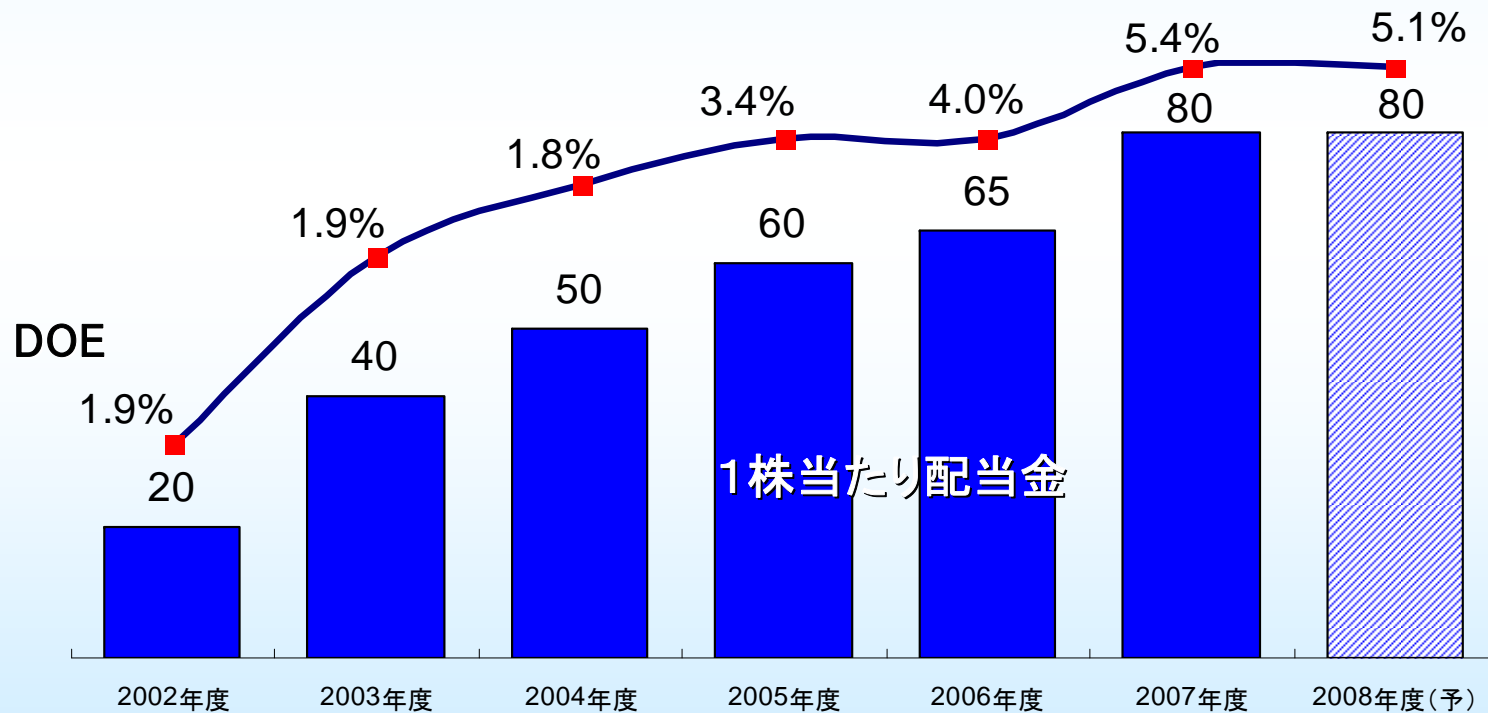
企画・事業開発機能
強化

グローバル推進体制強化

継続

株主還元策

- 将来の資金需要、財務状況等を考慮して、配当水準の維持、向上に努める
- 2010年度の目標としていた株主資本配当率(DOE)5%を2007年度に実現、2008年度も維持する
- 自己株式取得・消却は機動的な手段として適宜検討する



自己株取得額(億円)	32	0	26	0	0	48	0
総還元性向(%)	59.5%	55.8%	63.3%	39.9%	42.9%	92.3%	52.3%

参考：2006-10年度 中期数值目標

2010年度 数值目標

- 売上高： 1,150億円以上（2005-10年度CAGR：3%以上）
- 営業利益： 320億円以上（2005-10年度CAGR：8%以上）
- 当期純利益： 220億円以上
- ROE： 13%以上
- 研究開発費： 160億円を目標